

13  
第13回

# チベットの歴史と文化学習会

日時 2011年10月30日(日) 13:00～16:30 (開場12:40)

場所 文京区民センター3階 3-A会議室 参加費 ¥1,000

## ◆シンポジウム 周縁からのチベット～歴史と信仰～

モンゴル、インド、中央ユーラシア、日本と、周縁からチベットを考えるシリーズの最後は、チベットも交え「歴史と信仰」をテーマに横断的に展開します

### ーパネリストたちの提言ー

楠木賢道 (くすのきよしみち 筑波大学人文社会科学研究所教授 清朝史) <http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200901099595120408>

#### 「清朝とチベット仏教」

清朝の第2代君主ホントイジは、フビライとパクパの関係をモデルとして、自分とダライ=ラマ五世との間に施主と応供僧(教主)の関係を取り結ぼうとします。また清朝皇帝とモンゴル首長層は、皇帝と王公層、盟主と同盟勢力という関係を取り結ぶこととなりますが、ダライ=ラマには、何れも施主として対します。このような枠組みの中で、清朝皇帝、ダライ=ラマ、モンゴル首長層の3者間関係が現実政治のレベルでどのように推移していたのかを考察します。

菅原 純 (すがわらじゅん 東京外大 AA 研フェロー 新疆史) <http://www.uighur.jp/>

#### 「膨張する『殉教』の記憶 ー新疆ムスリム反乱(1864～65)史をめぐるー」

現代ウイグル人の口承文芸作品「アブドゥラフマン叙事詩」は、数あるウイグル口承文芸の中でも(1)19世紀の史実を扱い、(2)その原初的な形が複数記録されている、と言う2点において極めてユニークな価値を持つ作品です。本報告では、当初は短い「歌謡」であった物語が約1世紀の間に「膨張」し、壮大な「叙事詩」へと変貌をとげたプロセスを追い、そこに潜む聴衆の「歴史の記憶」との関わり方を検討します。

岩尾一史 (いわおかずし 神戸市外国語大学客員研究員 チベット史) <http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200901032871610069>

#### 「ソンツェンガンボは今も生きているか」

チベットに仏教が浸透するにつれて、チベット史は文字通り仏教の歴史と重なって行きます。その過程で本来は軍事国家であった古代のチベット(7世紀～9世紀)は、仏教の理想郷へと変貌を遂げてゆきます。このような古代像はチベット独自の歴史観に生きているのか? 古代のイメージの変遷を追いながら、現代チベット人の歴史観について考察します。

コーディネーター：貞兼綾子 (さだかねやこ チベットの歴史と文化学習会)

## ◆質疑応答とチベット最新情報 進行：長田幸康 (おさだゆきやす ライター/I love Tibet! HP 主宰)



### 参加申し込み

下記アドレスよりお申し込みください。

<http://www.tibet.to/gaku13/>

FAXで申し込みの場合はお名前、連絡先をご記入の上、下記よりお申し込みください。

FAX: 046-253-3931

※要予約。定員になり次第締め切らせていただきます。座席に余裕がある場合のみ当日参加も可能です。

●主催：チベットの歴史と文化学習会 ●お問い合わせ：e-mail：trb.gakusyukai@gmail.com